

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.4 4

開催地：人吉市東校区

平成 19 年 10 月 31 日（水）、人吉市東校区（会場：人吉市東西コミュニティセンター）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約 40 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

市内	32 名
市外	7 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・河川整備基本方針では、具体的施策を決めるものではないと言っているのに、ダム以外の河床掘削や堤防の嵩上げ、川幅の拡幅などは出来ないと述べているのはひどい。ダムによらない治水対策こそ進めるべき。
- ・住民討論集会の時には出てこなかった人吉層の露出の問題が新たにでてきたことはひどい。多摩川の例は落差があるから掘れたのではないか。人吉層露出により護岸が崩れると知っているが、下に散歩道等を整備して堤防を強化すればよい。
- ・小委員会として公的に現地視察をすべきだった。
- ・小委員会の委員長は国交省 OB だった。これでは客観的な検討などできない。国交省寄りの検討がされたのではないかと懸念される。委員の人選のやり直し、基礎資料の検討を含め、客観的に公平と思える手法で基本方針の検討をやり直して欲しい。
- ・知事の意見が報告会で配布されている資料に盛り込まれていない。基本方針は、国土交通省が川辺川ダムを造りたいがための都合のいいものだとしか思えない。
- ・基本方針では、基本高水流量の算出手法が変わっており、過去の説明と矛盾する。氾濫戻し流量は科学的検討に値する数字なのか。森林の保水力についての損失雨量の図には時間軸が全く無い。これで何を説明しようとしているのか。計算式、計算の根拠となる全てのデータを明らかにして欲しい。
- ・昨年の川内川に降った雨が球磨川に降った場合は、(川辺川)ダムはパンクしているはず。無責任な推定を繰り返さないで欲しい。
- ・(過去の歴史的洪水を検証した)青井阿蘇神社の例について、推定の根拠を示して欲しい。
- ・報告会は、説明が一方向的で再質問もできない。
- ・基本高水流量について、S40 年 7 月洪水型を採用すると 10,230m³/s になり、大きすぎるので棄却し、6,997m³/s を採用しているが、こんなことが科学的に成り立つのか。都合のよいやり方をしたのではないか。12 時間雨量で計算したのか。このようなやり方を全国の他の河川の基本高水流量算出時に採用すると、どのような結果になるのか教えて欲しい。
- ・S45 年頃は林野面積が伐採されて減ったと聞いているが、森林面積の資料の数値には伐採地も含まれているのか。
- ・各年代で損失雨量が変わらないことが、森林の保水機能に変化がないことの説明になっているのか。森林の有無で洪水到達時間は変わるが、河川への流出量自体は変わらない。問題なのは河川への流出量ではなくピーク時の流量である。
- ・小委員会に対して、地元住民として毎回毎回多くの意見を出したが、何一つ意見が取り入れられていない。
- ・小委員会の発言議事録には委員の名前が載っていない。おかしい。

【球磨川の治水対策について】

- ・S40 年、46 年、57 年と大きな洪水を体験している。S46 年の洪水時には市房ダムが洪水調節不能になったという事で高台に避難した。

- ・(治水対策にあたり) 不可逆的なことはしてはいけないというのが、ダムこそ不可逆的だと思う。
- ・国民宿舎の前の辺りの球磨川で露出しているのは、宝永の噴火の時にできた溶岩層であり、人吉層ではない。溶岩層の下に人吉層がある。今工事中の人吉大橋の下流にも溶岩があったが、それを除去したために、深堀れになって人吉層が露出している。また、浅川の露出の例が説明されたが、その原因についての説明がない。
- ・浅川は上流の遊水地をつぶし、河道をまっすぐにし、出来るだけ多くの水が流れるように川の砂利を掘削し、河道を広げていった結果、軟岩が露出したのではないか。自然のまま球磨川も浅川のようになるという説明はいかがかと思う。
- ・水害を無くすために市房ダムが出来たと聞いたが、S35年に完成し、その3年後から災害が始まった。ダムができる前とは異なる水害で、特にS40年は、これまで全く経験したことのないような水害だった。それから、S46年、47年と3～4回とんでもない水害があったが、なぜこういう事態になったのか。ダムによって水害を無くすはずではなかったのか。ダムには構造的に欠陥がある。汚濁についても、治水についても完全ではない。国交省はどのように考えているのか。

【球磨川の環境について】

- ・球磨川の礫(レキ)は球磨川の命である。国土交通省は(上流から流れてくる)礫を遮断するための砂防えん堤を上流に造ろうとしている。礫が流れて来なくなったために岩が露出しているのであって、掘ったためではない。今から造られる砂防えん堤を見直す予定はないのか。

【その他】

- ・水害体験者の方に聞き取り調査に行く場合は、ほとんどの方が高齢であるため配慮が必要。国交省の職員が大勢で聞き取りに行ったら精神的に圧迫を感じる方もいる。住民とのつきあい方には注意して欲しい。
- ・熊本県が(報告会の場ではなく)、独自に市房ダムのこれまでの数々の罪に対する説明を行うべき。
- ・現場から大臣等への説明責任をきちんと果たして欲しい。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日HPに掲載させていただきます。

